令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 与野八幡小学校 ）　学校番号　０８５

【様式】

目指す学校像	○学ぶことの楽しさや喜びを味わうことができる学校　○保護者・地域から信頼される学校 ○安全・安心で、潤いのある教育環境が整った学校

重点目標	１　さいたま市教育行政に係る子どもの学び方と教職員の教え方の改革を推進する。 ２　安全・安心な学校生活に向けた取組を実施する。 ３　開かれた学校づくりの推進及び家庭並びに地域との協働体制を確立する。 ４　教職員の協力体制の確立と指導力の向上を図る。

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和６年２月６日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	○昨年度の全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査の結果は、国語・算数共に全国・市平均を上回っている。また、英検ＥＧＳの結果においても、「よくできている」という判定が出されている。 ○子どもの学力向上に係る学校評価アンケート項目（進んで学習している、授業が分かる）の、子どもの肯定的な評価における過去三年間の平均は、それぞれ９２．７%、９６．１%となっている。 （課題） ○子どもの学力向上に係る学校評価アンケート項目の「授業が楽しい」において、昨年度の肯定的な評価が－５%という結果がでた。 ○新体力テストの結果から、筋力、柔軟性、全身持久力が劣る子どもが多い。	・市の教育施策に係る授業の推進	①「さいたま市ＧＩＧＡスクール構想」のもと、ＩＣＴの日常的な活用を前提とした、子ども主体の学びを推進する。 ②「さいたま市『アクティブラーニング』型授業」「学びのポイント『じ・し・ゃ・ク』」「個別最適な学びと協働的な学び」の視点を踏まえた授業を実践する。	①学校評価アンケート項目（進んで学習している、授業が分かる、授業が楽しい）が、子どもの肯定的な評価における過去三年間の平均を、上回ることができたか。 ②子ども、教職員及び保護者の学校評価アンケートの該当項目のＡ評価が昨年度 67.2%、72.0%及び 39.1%以上達成することができたか。	①評価指標の結果は、「進んで学習している」が、９１．８%で、平均との差が－０．９（Ａ評価は６０．２%で、同差が＋１．２）、「授業が分かる」が、９５．７%で、同－０．４（Ａ評価は６９．７%で、同差が－１．９）、「授業が楽しい」が、９１．０%で、同－１．０（Ａ評価は６５．２%で、同差が＋２．７）であった。 ②評価指標の結果は、子どもが６７．５%で、差が＋０．３、教職員が５４．７%で、同－１７．３、保護者が４２．４%で平均との差が＋３．３であった。	A	①Ａ評価の向上傾向から、学習面での二極化を課題として捉え、できない子どもへ手立てについて、研究・実践していくことが必要である。 ②さいたま市が推進する「学びのポイント『じ・し・ゃ・ク』」「個別最適な学び・協働的な学び」を軸とした授業改善を、学校課題研究を中心に推進していく。	・「学力の二極化」について、実際に学校でどのような対応をしているのか。（習熟度に応じた個別の指導や学習と、その手立てについての説明後、）やる気の出ない子どもを学習に向かわせるのは決して簡単な事ではないので、学校の今後の取組に、大いに期待したい。 ・家庭で、我が子が隣のクラスの担任から学んだことを話すことが増えた。高学年が行っている教科担任制の授業は、子どもの発達段階や関心事に合っていて、よい取組のように思える。
		・直接体験を通して、実感を伴うことができる学習活動の実践	①社会人講師からの直接指導や学校内から場所を変えて行う体験活動を通して、「なるほど、楽しい、できてうれしい」と思える学習・行事を実践する。 ②体育の授業や運動会・持久走記録会・体力アップキャンペーンを通して、子どもの運動時間を確保していく。	①子どもたちの「体験・実感」が得られる教育活動を重視し、社会人講師や民間企業・本市の教育施策事業に係る出前授業等からの直接指導を年間通して１０回以上、学校から場所を変えて行う体験活動を年間通して１０回以上設定し、実行する。 ②学校評価アンケート項目（健康安全に気を付け、体力づくりに励む子どもに育っている）を、１の①と同様に保護者及び教職員で評価。	①出前授業等の実施は２学期末で１０回実施。３学期に３回実施予定。学校以外を使った地域施設等を活用した活動は２２回実施。３学期は２回実施予定。 ②評価指標の結果は、保護者が９７．０%で平均との差が＋１．５（Ａ評価は４２．１%で、同差が－０．６）、教職員が８８．０%で、同－１．９（Ａ評価は２０．０%で、同差が－１１．２）であった。	A	①引き続き、子どもの気付きや意欲を重視した「体験・実感」の伴った学習活動を推進するために、地域に開かれた教育課程を再編成していく。 ②体育的行事や業間運動は勿論、体育の授業では運動量の確保と、運動する喜びが味わえる活動となるよう、工夫・改善を図っていく。	
2	○過去２年間のさいたま市学習状況調査における「学校に行くのが楽しい」に、肯定的に回答した子どもの割合は、市平均より２%高い。 ○学校の安心に係る学校評価アンケート項目（子どもは喜んで登校している、学校は子どもの悩みやトラブルに適切に対応している、子どもは仲よく生活している）の、保護者の肯定的な評価における過去三年間の平均は、それぞれ９２．９%、９６．４%、９４．６%となっている。 （課題） ○心と生活のアンケート結果を基に、過去２年間における学期ごとにおいて、担任と教育相談を実施した子どもの割合は１７．２%で、悩みや不安を抱えている子どもが多数いる。	・子ども同士のかかわりを大切にした活動と、校内で安全に楽しく生活することができる取組の実践	①子ども自らが、人とかかわることのよさ・楽しさが味わえるよう、同学年・異学年合同による学習や活動、学校行事を、計画どおりに実践する。 ②子どもたちの基本的な生活習慣やルールやマナーが定着できるよう、月別生活目標の取組を中心に指導する。	①学校評価アンケート項目（友達と協力して活動しているか）が、子どもの肯定的な評価における過去三年間の平均を、上回ることができたか。 ②学校評価アンケート項目（生活目標を守っていますか）が、子どもの肯定的な評価における過去三年間の平均を、上回ることができたか。	①評価指標の結果は９６．３%で、平均との差が＋１．７（Ａ評価は７９．３%で、同差が＋８．１）であった。 ②評価指標の結果は９１．２%で、平均との差が－２．３（Ａ評価は５６．４%で、同差が－５．５）であった。	A	①月１回の異学年活動と新たなロング集会を学期に１回ずつ実施し、低学年交流学習を２回増やして年間７回設定したことが、成果に反映されている。子ども同士のかかわりを大切にした学習や活動を、今後も継続していく。 ②月１回の生活朝会を通して、月別生活目標の取組を伝えるとともに、子ども自身に評価する場面を適宜与えていきながら、子ども自らが「気付き・考え・行動する」ことができるようにしていく。	・人間関係プログラムは、我が子が小学生の時から行われているが、内容は変わっているのか。（少しずつ改編されていること、時間数が減ったことを説明。） ・道徳の授業で、子どものＳＮＳトラブル防止のための指導はしているのか。（道徳だけでなく、講師を招聘した安全教室や、映像教材を活用した学年集会での指導など、適宜適切に行っていることの説明後、）学校と家庭との連携が足りないことで、親としては子どものスマートフォンの使用に関して心配している。
		・自尊意識を高める取組の実践	①子ども同士の人間関係を構築し、深められるよう、人間関係プログラムや道徳の授業を核として実践を重視する。 ②個々の自信が高められるよう、学級・学年内における係・当番・役割における取組を、適宜・適切に評価していく。	①学校評価アンケート項目（友達が嫌がることはせず、みんなと仲よくできている）が、子どもの肯定的な評価における過去三年間の平均を、上回ることができたか。 ②さいたま市学習状況調査における「自分には、よいところがあるか」で、肯定的に回答した子どもの割合が、市平均より上回っているか。	①評価指標の結果は９４．９%で、平均との差が＋０．５（Ａ評価は６９．３%で、同差が＋０．４）であった。 ②市調査の結果は９２．６%で、市平均との差が＋２．９（Ａ評価は５９．５%で、同差が＋７．１%）であった。	A	①心と生活のアンケート結果から教育相談の対象になった子どもたちを中心に、個々のもつ課題をよく理解しながら、その課題に寄り添ったかかわりを行っていく。 ②子どもが行う取組は、本人のめあてとその出来栄えについて評価することを繰り返していきながら、自分の行動や役割に責任がもてるようにしていく。また、教師と子ども、子ども同士が称賛し合い、認め合える人間関係を構築していく。	
3	（現状） ○昨年度実施した学校運営協議会において、本校の子どもたちに身に付けさせたい力である「自ら考え、判断し、行動に移すことができる態度」「チャレンジ精神」「自分から挨拶ができる」「たくましさと思いやり」について共通理解を図り、学校・家庭・地域で取り組むことについて、できる取組から実践していった。 （課題） ○新型ウイルス感染症とのＷｉｔｈ並びにＰｏｓｔの時代に向けて、これまで保護者・地域に公開する機会が少なかった学校教育活動を、どのように公開し、学校の取組や子ども・本校職員の活躍する姿を広めていくか。	・子どもに身に付けさせたい力の育成に向けた取組の実践	①子どもに身に付けさせたい力の育成に向けて、家庭・地域で取り組む手立てを検討し、取り組んでいただく。 ②新たに課題について見出し、解決策について協議する。	①家庭・地域で取り組む手立てを一つ以上設定し、実践に移すことが検討され、取り組みにいたっているか。 ②新たに課題について見出すことができた場合、その解決策について協議し、次年度以降の取組として、設定することができたか。	①②今年度は「地域が目指す子ども像」の中から「今以上に、自分から挨拶ができる子どもを育成する。」ことを目標に掲げ、家庭・地域で取り組む活動を計画し、実行に移すことができている。また、学校を含めた三者が連携した新たな取組を設定し、実行に移す計画を進めている。	A	①家庭・地域での取組と併せて、三者が協働して行う手立てを、今後も共有し合い、学校も協働していく。 ②①と同様に、新たな課題の解決に向けた取組を協議し、学校も協働していく。	・地域で生活する子どもの姿からも、スマートフォンの使用については、心配な面が見られる。児童センター内でも、子どもが勝手に動画を撮り合っている姿を見ると、どこまで声を掛けてよいのか、ためらう場面がある。 ・本来なら、スマートフォンの使用は、保護者が我が子に躾けること。ただ、課題があるなら、本運営協議会の新たな取組として、議題にあげてもよいのではないか。 ・学校から配信される校外学習に係る安心メールでの連絡は、とても感謝している。各種たよりが学校ＨＰによる閲覧になったことは、いつでもどこでも見られるよさがある反面、紙による配付の方が、じっくりと読めるよさがある。
		・本校の教育活動における、積極的な情報の公開	①学校・学年だよりや学校ＨＰ、学校安心メールをとおして、本校の教育活動の様子を発信していく。 ②県や市の感染状況や市教育委員会の指示・指導を基に、学校公開を計画的に実施していく。	①各種配信内容を、計画どおりに配信することができたか。 ②学校評価アンケート項目（学校公開日や授業参観、学校行事等が適切に行われている）が、保護者の肯定的な評価における過去三年間の平均を、上回ることができたか。	①不審者情報や学級閉鎖の連絡の他、校外学習について、活動の様子や到着時刻の報告等、保護者のニーズに合わせた情報を提供した。（５・６年の宿泊行事は、計３５回配信） ②評価指標の結果は９８．８%で、平均との差が＋４．５（Ａ評価は５７．３%で、同差が＋１１．５）であった。	A	①今年度から導入した、学校だより等のデジタル配付を軸とし、今後も学校ＨＰを、更なる情報発信拠点として利活用していく。 ②次年度は、５０周年行事実施に即した学校行事等が、適切に行われるよう計画していく。	
4	（現状） ○「基本的な資質・能力を基に、自律的、探究的に学び続ける児童の育成」を研究主題とし、個別最適な学びの実現を目指すための指導法について研究してきた。 ○高学年での教科担任制実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができている。 （課題） ○引き続き、「基本的な資質・能力を基に、自律的、探究的に学び続ける児童の育成」を研究主題とし、個別最適な学び・協働的な学びの実現を目指すための指導法について研究する。	・「個別最適な学び・協働的な学び」を追究する学校課題研究の推進	①「個別最適な学び・協働的な学び」の実現を目指す指導法の研究を全教科において組織的・計画的に実行し、授業研究会を２・３学期中心に年間５回以上実践する。 ②必要に応じて、適宜、市教委等から指導者を要請し、本校の実践について指導・助言を受ける。 ③年間を通してさいたま市が新たに取り組む「学びの指標（令和５年度施行版）」を基にした授業実践に取り組み、教職員の授業力向上を図る。	①②共に、教職員評価アンケート項目の学校課題研究に係る２項目が、肯定的な評価における過去三年間の平均と同水準の値を達成できたか。また、授業研究を、年間５回以上実践することができたか。 　また、学校課題研究で取り組む調査結果から、研究成果が得られる結果として検証することができたか。 ③市が実施する年間１回の調査結果が、目的達成の基準と同水準以上の値となることができたか。	①②評価指標の結果は９８．０%で、平均との差が＋２．８（Ａ評価は２９．０%で、同差が－１３．３）であった。また授業研究会は、９回設定することができた。なお、学校課題研究における研究成果結果は、現在検証中のため、結果が分かり次第、達成度と次年度への課題・改善策を記述する。 ③本校教職員の授業を子どもが評価した結果「主体的な学び」は、市平均より＋０．１「探究的な学び」は、同±０、「ＩＣＴの効果的な活用」は、同＋０．１、「基礎的な授業スキル」は、同＋０．１であった。	A	①②学校課題研究の同テーマ３年目に当たり、引き続き、授業研究を中心とした「個別最適な学び・協働的な学び」を、学びのポイント「じ・し・ゃ・ク」を意識した授業展開で、実践していく。 ③子どもが自分の考えを広げたり、深めたりできるような、思考の発展を促す学びがさらにできるよう、単元や教材の研究を進めていく。	・教育活動参観時にも紹介があったが、学校のタブレットを使った授業だけでなく、プロジェクターによる画像投影など、学校現場の進化が、ここ数年で一段と飛躍したように思われる。また、理科の実験学習でも、子どもの安全面を考慮した手立てがしっかりと講じられており、昔の学校教育とは違うところに驚かされる。 ・教職員が、子どもの思いや願いをしっかりと汲み取って、その時の状況に応じながら弾力的に教育活動を行っていることに、感謝の思いしかない。学校が行っている努力を、是非、保護者・地域に発信していってほしい。それが、家庭や地域でさらに協力できることにつながっていくと思う。

令和５年度　学校評価結果について

本年度の「学校評価」の結果の概要をお知らせします。今回の評価結果を踏まえ、一層の指導の充実を図り、課題については引き続き改善に努めてまいります。

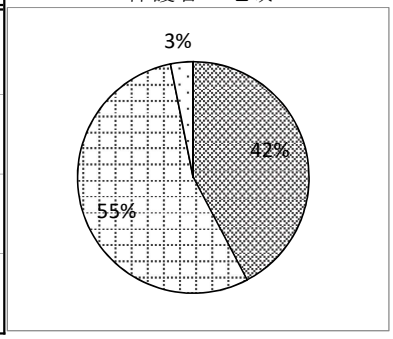
◇評 価 者	保護者・地域(学校評議員)	教職員	◇実施時期	令和５年１２月
◇回 収 数	保護者・地域　３３８名	教職員　２５名		

そう思う　まあまあそう思う　あまりそう思わない　まったくそう思わない　分からない

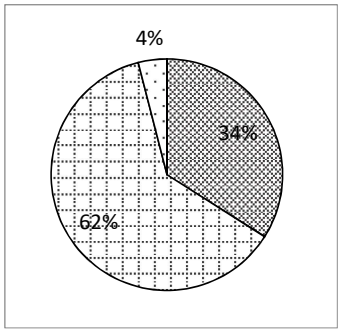
Ⅰ　経営方針・重点目標について

評　価　項　目
与野八幡小学校の子どもたちは、目標の実現を目指し、意欲をもって学習に取り組む子どもに育っている。
与野八幡小学校の子どもたちは、やさしさと思いやりのある親切な子どもに育っている。
与野八幡小学校の子どもたちは、健康安全に気をつけ、体力づくりに励む子どもに育っている。
与野八幡小学校の子どもたちは、あいさつや返事をしっかりとし、友だちとのかかわりあいを大切にする子どもに育っている。

＜保護者・地域＞



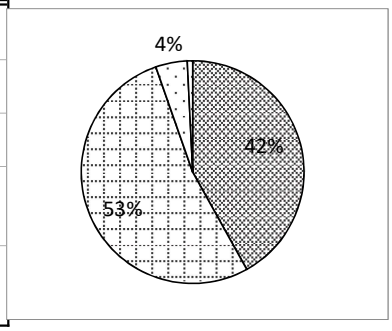
＜教職員＞



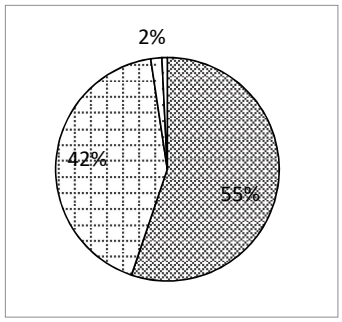
Ⅱ　教育活動・授業について

評　価　項　目
学校では、子どもがわかりやすいように工夫して指導を行っている。
学校では、子どものよさや可能性を伸ばそうとしている。
学校では、自然や本などと触れ合う場や機会を位置づけ、教育活動を工夫している。
学校では、コンピュータ、大型テレビ、実物投影機等を使った授業を工夫している。
学校では、一人ひとりの児童の理解の程度に応じた指導形態の工夫による、きめ細かな指導を行っている。

＜保護者・地域＞



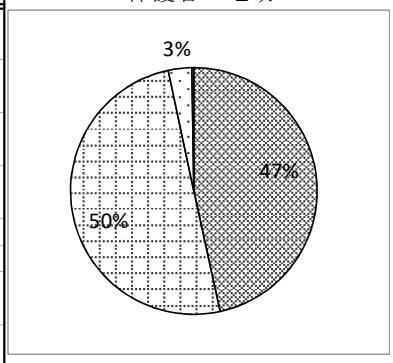
＜教職員＞



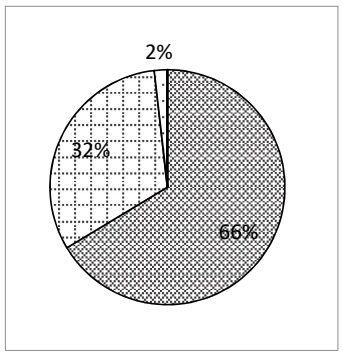
Ⅲ　生徒指導・教育相談について

評　価　項　目
子どもは、友だちがいやがることはしないで、仲良く生活している。
子どもは、与野八幡小が好きであり、喜んで登校している。
学校では、子どもの悩みやトラブル等について、適切に対応している。
保護者からの相談や要望に対して、教職員は誠実に対応している。
学校では、児童に交通安全についての指導をしている。
学校では、児童に防災･防犯についての指導をしている。
学校では、児童に健康や安全に対する意識を高める指導をしている。
学校では、児童にけがの防止など安全について指導をしている。
学校では、児童に給食の指導をしている。

＜保護者・地域＞



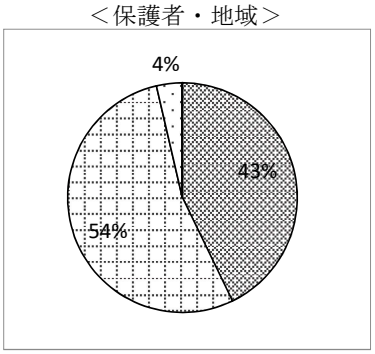
＜教職員＞



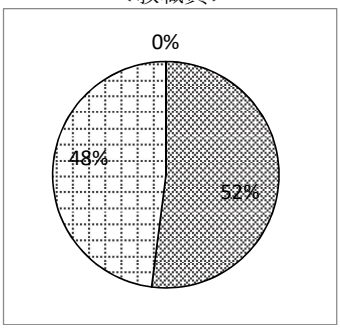
Ⅳ　施設・設備について

評　価　項　目
学校では、児童の事故防止に努め、施設・設備の安全に配慮している。
学校では、教室や特別教室の整理整頓がなされ、活用されている。

＜保護者・地域＞



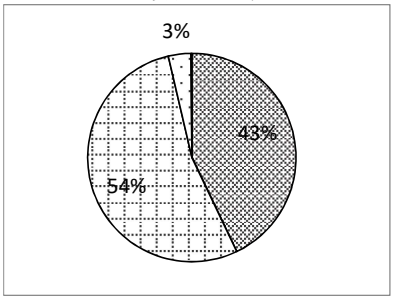
＜教職員＞



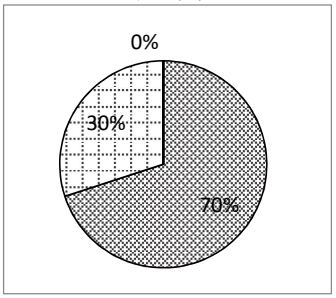
Ⅴ　家庭・地域との連携について

評　価　項　目
学校では、家庭への連絡をきめ細かく行っている。
保護者や地域の方々に学校をよく知っていただくために、学校公開日や授業参観、学校行事等が適切に行われている。
保護者や地域は、学校教育に積極的に関わろうとしている。（スクールサポート　ネットワーク、授業参観・懇談会、PTA活動他）
学校は、保護者や地域の願いに応えようとしている。

＜保護者・地域＞



＜教職員＞

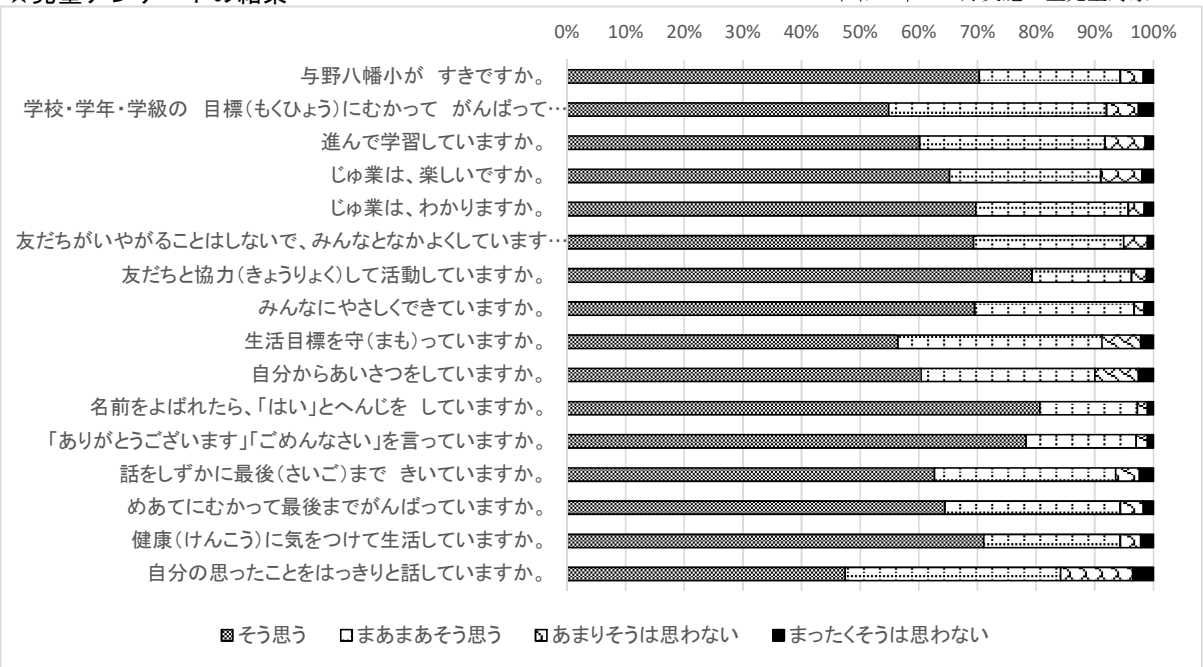


☆皆様から貴重なご意見等も多数いただきました。（抜粋）

・通学時、正門の前で元気に挨拶をしている子どもたちの姿が印象的です。
・公開授業や運動会、音楽会などの行事で、子どもの様子を見ることができて嬉しいです。
・担任の先生が子どもに合わせた本を紹介してくれるので、今年に入ってからたくさん本を読めるようになった。
・授業参観に参加させて頂いた際、自発的に子どもが考えられるよう指導をして下さっておりました。個人の発言の機会も豊富に用意してくださり、とても感謝しています。
・個人的にはなりますが、よく子どもの特徴を理解して対応していただいてます。ありがとうございます。
・お友達との関係を先生がよく把握してくださり、適切なご指導をいたたいていると思います。ありがとうございます。
・挨拶をする子どもは少ない気がする。昔に比べて、きちんとあいさつをする子が減ったように思う。
・設備が古いと思います。トイレも修繕工事もしっかりされるのでしょうか。心配です。
・放課後の外遊びが少なくなっているため、子ども達の体力運動能力面が心配になります。
・ハッピーコンサートと中学校の合唱コンクールが同日であったため、兄弟姉妹のいる家庭は両方見ることができなかった。

☆児童アンケートの結果

令和５年１２月実施　全児童対象



学校評価を踏まえた改善策について

○あいさつ強化期間や、児童会主体のあいさつ運動等を、今後も継続していくとともに、学校運営協議会の熟議を踏まえ、学校・地域・家庭の3者で協働して行う「あいさつキャンペーン」を実施する。
○自己表現力に「自信がない」児童が、増加傾向にあることを踏まえ、学校全体研修「個別最適な学び」をとおして、児童の自己表現力を高めていく。
○昨年度に引き続き、保護者が児童が頑張っている様子を参観できるような行事等を、近隣の中学校とも連絡を取り合いながら調整を行い、計画、実施していく。
○今後も積極的に、タブレット端末を積極的に活用していくとともに、ICT機器の整備や管理方法の工夫・改善を進めていく。